

しんろだより

令和5年3月1日発行
京都府立南山城支援学校
進路指導部

寒さ厳しい節分を超え、音楽室から卒業式の歌が聞こえてきます。

先日(1/31)はPTAの研修で「グループホーム」をテーマにライフサポート協会の方からお話をして頂きました。25名程の参加で、皆さん熱心にお話を聞き質問もされていました。昨今、進路指導をする中で、日中の進路希望に加えてグループホームのことが話題になることが多くなりました。お話の中でも、いろいろな形のグループホームが数としては増えており、探せば見つかる時代になっていると言われましたが、やはりその生徒に合ってるか、その他の条件はどうかなどしっかり見極める必要があります。また、生活費全体についても標準的なものが示され、決して余裕があるわけではないとわかりました。また、「親なきあと」ではなく、「親が元気なうち」に、という言葉が印象的でしたが、今の暮らしはおのずと変わっていくことから、先を見据えてできることを準備していく、このことを学校でもお家でも意識できればと思います。



★★★各学部の取り組み紹介★★★

小学部3、4、5組『特別活動/日常生活の指導』



自分で考えて伝えたり、友達とやりとりしたりすることを日常的に大切にしています。3学期になり、児童同士でもけんかに折り合いを付けたり、相談し合ったりできるようになってきました。

先日、6年生へのおめでとうメッセージを録画した時のこと。「どんな言葉にする?」という指導者の問いかけに対し、「おめでとう」「おにいさんおねえさんになってね」「またあそぼうね」「ありがとう」などそれぞれがアイデアを出しました。「どれを言いたい?」と聞くと、それぞれが、言いやすさや、一緒に言う友達を見ながら、自分で「これにする」と選びました。「言うのは緊張するけど、紙を持つのはできる!」と役割を作って参加した児童も。集団の中で、友達に気持ちを向けたり、意見を出し合いながら、自分を発揮することが、様々な場面でできるようになってきました。

中学部4、5組『進路学習』

中学部4、5組は、障害者支援施設あんびしゃに職場見学に行きました。実際に仕事をされているところの見学とリネンの仕事体験をしました。生徒たちは、「仕事が早くて、びっくりしました。」「仕事は大変だけど、すごいなと思いました。かっこ良かったです。」「タオルたたみ、楽しかったです。表と裏をよく確かめて、たたみました。」などそれぞれ振り返っていました。見学や体験を通して、『社会に出て働く』ことを知って、将来のイメージを膨らませ、仕事のかっこよさと大変さを知ることができました。進路学習で学習したことを作業学習や日々の学習と結びつけながら学びを深め、高等部に繋いでいきたいと思っています。



高等部8、9組『作業学習』

作業学習は卒業後に働くために必要な力をつけるための学習のひとつです。この作業学習は「ものづくり」と「サービス」の2つのカテゴリーに分類されます。

「ものづくり」では木工と窯業の学習に取り組めます。さまざまな工程を経て製品を作り、作った製品は「ふれあい・こころのステーション」や「ときめきショップ」で販売します。

「サービス」ではビルメンテナンスと接客に取り組めます。ビルメンテナンスでは、校内の清掃に加え、駅や近隣の小学校等、校外清掃にも取り組めます。喫茶については2、3年生のみの学習になっており、3学期から新しく取り組み始めています。

いずれの作業種においても、①きれいにしていねいに製作したり作業したりする技術面②真面目に一生懸命集中して取り組む態度面③指導者や一緒に作業をするメンバー、その他さまざまな方とのやりとりや言葉遣いを意識したコミュニケーション面④活動することに対してのいきがい・やりがいや、主体的・積極的に取り組みたいと感じるような、働くことに対する気持ちを育てる面等、共通しての大きなねらいとして取り組んでいます。

